

短い客の両方に向くよう座席は横形とたて形の両者を備えている。国鉄では横須賀線電車などがその例である。

(5) 中・長距離用電車 比較的距離の長い区間を走るもので、蒸気列車と同様の長い編成をなし速度も高い。客車のように客室と出入台が仕切られており、座席は横形である。わが国では湘南(しょうなん)形電車等がこれに属する。

3 車体の材質による分類

(1) 木製車 鋼製または木製の台わくに木製の車体を乗せたもので、車体が弱いから現在は逐次廃車されまたは鋼製に改造されている。

(2) 半鋼製車 台わく、車体の骨組および外板等は鋼製で屋根、床および内部化粧板等は木製のものである。わが国の電車はほとんどこれに属する。

(3) 全金属車 屋根、床および内部化粧板等すべて金属製とした車で、最近では電車を不燃化するためと、塗りかえの手間をばくために次第に全金属製化されつつある。

4 構造による分類

(1) 電動車 主電動機および主制御器がある車で自転車または、他車の運転室から制御されて駆動することができる。最近では自車に運転室がなく中間用電動車として使用されるものが多い。

(2) 制御車 運転室はあるが、主電動機がないから常に電動車に連結して運転する。

(3) 付随車 運転室も主電動機もなく常に電動車や制御車の中間に連結して運転される。

5 台車構造による分類

(1) 2軸車 車軸の数が2軸のもので、路面電車のような小形の電車に使用される。

(2) ボギー車 ボギー台車をもつ電車。

(3) 関節式電車 2つの車体の連結部に1つの台車をおいた構造のもの。

6 用途による分類

(1) 旅客用電車 旅客を乗せるための車で、これに2等、2・3等および3等車の区別がある。

(2) 郵便・荷物車 客扱をせず郵便および荷物を運ぶ電車。

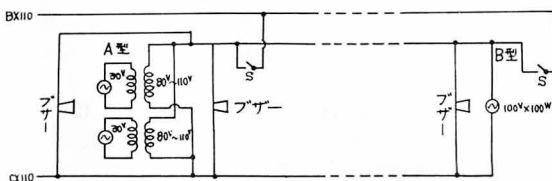
(3) 特殊電車 試験車、散水車、雪かき車等の電車がある。(内村守男)

てんしゅうじょうていしけいほうき 電車非常停止警報機

混雑する乗降場において乗降客の安全を確保するため、在来はホームの各所に駅員を配置して、これが警備にあたり、もし危険が生じたときは、運転士または車掌に通告して、非常制動により急停車していたのであるが、その通告に手間取る場合があり、また通告が運転士または車掌の一方であるため、うまく行かなかったこともあって危険が大であった。

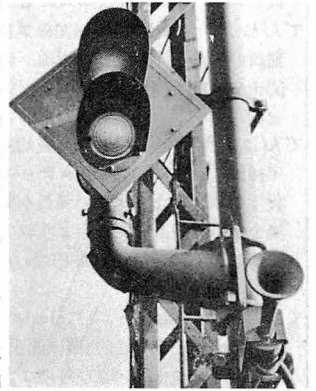
しかるに電車非常停止警報機を設置することにより、運転士と車掌に同時に灯と音響によって警報することができ、したがって非常制動手配を適切にとることができるから傷害事故が防止できる。

1. 電車非常停止警報機結線図



機構にはA型とB型とがあり、A型は運転士に対するもので色灯2位式の機構であり、30V、40Wの信号電球を使用し、2灯とも赤色表示である。またB型は車掌に対するもので、出発反応標識のレンズを赤色としたもので、これらにそれぞれブザー(交流100V用)を併用して灯および音響により警報する。

制御器は保持式開閉接点(常時開放)を鉄板製外箱内に入れ、握り易いハンドルを箱外に出した構造であって、このハンドルを引けば警報灯はすべて点灯し、かつブザーが鳴る装置である。ブザーは指向性のあるホーン付であるが、運転士に対するものは2個使用してある。(渡辺正敏)



2. 電車非常停止警報機

てんしゅうじょうきさきひょう 電車行先標

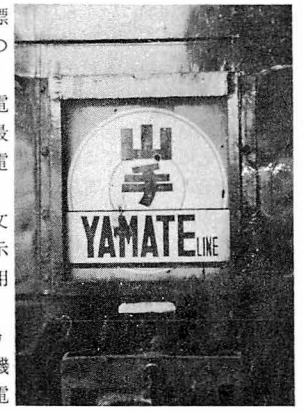
電車の行先を旅客に対して案内するための掲示標であって、第1種、第2種の2種類がある。

1 掲出場所 第1種は電車前頭中央中部および車両最後部の中央中部、第2種は電車車側窓の上部。

2 着色 白地に群青文字、ただし行先運転系統を示すため特殊の図案、色彩を用いることがある。(古池義雄)

てんしゅうじょう 電修場

国鉄の鉄道管理局の現業機関。そのおもな担当業務は電気機械器具の修繕および検査である。機器の各部を解体の上、電



1. 電車行先標(第1種)

氣的、機械的欠陥の有無について全般的に行う検査(甲検査)と、標準



2. 電車行先標(第2種)

計器により、電気回路(機器を含む)の電氣的機能の完否について行う検査(調整検査)とを施行し、また電力区、発電区、変電区、工事区および給電区において処理できない機器の修繕を行い、もって機器を常に完全な状態にあるように管理することを任務としている。札幌・仙台・新潟・高崎・東京・名古屋・大阪・四国・広島および門司の各鉄道管理局に置かれ、その数は11である。四国の丸亀電修場を除いては、所属鉄道管理局のほか所定の他局管内をもその担当区域として持つ機関であることが特色である。なお田端と大阪の電修場は電力機器を、倉賀野と草津の電修場は通信機器をそれぞれ専門に担当し、その他の電修場はこれらの機器をあわせて担当している。

電修場には電修場長が置かれ、鉄道管理局長の指揮を受けて助役、事務掛、用品掛、技術掛、自動車運転士、技工長、技工、技工見習、用品手、守衛および雑務手を指揮監督し、電修場に属する一切の業務を処理している。これらの職員を電修場従事